の距離を完走したことが客体化 ルにはられたテープのようなも 頂の三角点標石は、また、ゴ そのテープによって目 走者はテープが胸にふ

74

等

角 点

西

今

司

なごころをそっと石の上におくこ プとやらいうのかもしらぬが、 を踏みつけたものだが、このごろ

まであるが、

そこまでゆくと、

ふれ方がかわって、

スキンシッ

た

されるように、われわれは三角点 ことにする)にふれたとき、これ (以下標石を略して三角点という こともある。そのあとでたいてい は、三角点の上に罐ビー 石の上をなぜまわしているような とにしている。うれしさあまって

ないから、さきに登ったものもお 点で登山は先頭をあらそう競技で られてもよいものと思うが、この ら一人一人の走者にテープが与え がないからであって、ほんとうな れはテープをはりかえている時間 しあわせである。 に三角点にふれることができて、 くれてきたものも、 しか味わうことができないが、こ みな同じよう であって、三角点ならなんでもか とかく行きすぎたひとのいるもの らである。 ンボルとしての価値をもたない、 取りあつかいを受ける ことが あるような三角点は、このような ただの三角点であるにすぎないか い。それは、われわれにとって、シ 点、たとえば尾根の途中に設けて でもありがたかり、

ところが世の中には、

うことを告げるもののように思

れたからである。

前も、ほかにはなにもないところ この石の所有者であるお役所の名

なにもないところがシン

ルにふさわしいのである。

るけれども、

ただそれだけであっ

山の名前も標高も、

あるいは

点といった文字が、ほりこんであ わかるように、たとえば三等三角 等・二等・三等の区別があり、

標

うことを客体化するのである。ゴ で目的の頂上まで登りついたとい

ールのテープは第一着の走者だけ

ながら、山頂の三角点でない三角

れることになるらしい。

が積ま

ところで、

おなじ三角点であり

つのシンボルである。三角点に一 頂だということをあらわした、一

われわれにとって、ここが山

頂に埋められた三角点の標石

石にはその三角点が何等であるか

いころには重い登山靴で、 三角点にふれるといったが、 ふれ方にもいろいろあって、 三角点 若

あるのはもとより、

平地にひとし 尾根の途中に

数字を用いていたのである。

最近にでた五万分ノー

しもとめてよろこんでいるありさ いところにある三角点まで、さが

昭和50年(1975年) (No. 359)号 日本山岳会 (J. A. C.)

定価一部 100円

次 AND DESCRIPTION OF THE PROPERTY OF THE PROPERT

.....(7)

本文・随想

四等三角点(今西錦司) ……(1) 山名考•上(山本朋三郎) …(8) 奥秩父の孫四郎峠(柿原謙一)

紀行

不遇な山々・2 (石間信夫)…(6)

行事・委員会

第13回≪この一本展≫④……(2) 第8·9回高所登山委員会···(5)

図書紹介

一等三角点/水野公男ほか…(4)

その他

九山山房・深田久弥文庫・国立 国会図書館にて購入

(野上成勇) ………(3)

は標高をあらわすのに黒色数字を だが、これを図上でいうと、前者 らわしていた。記号説明ではそう があって、前者によって昇格した 明のところに、「点検ずみの標高 には△という記号でその所在を表 たけれども、戦後になって、 といわれても仕方あるまい。 れはもはや、一種のフェティシズ し、後者はもとのままの独標をあ 独標すなわち四等三角点をあらわ 点」と「未点検標高点」というの わしてはいない。はじめは記号説 したものであるが、五万分ノ一図 た。かつての独立標高点を昇格さ たに四等三角点というものが生れ ・二等・三等の区別があるといっ ム(物神崇拝)に堕落したもの、 私ははじめに、三角点には一等 後者の方は標高をあらわす あら

> ので、 これからあらたに登らねばならな 手づまりから私を救いだし、 私は京都近傍の三角点のある山 な四等三角点に昇格するのでは を知ったのである。そして、この というのが四等三角点であること 角点というものにお眼にかかり、 として、その頂上の西にある独標 らないのである。 めて表面にでてきた標石なるもの の」に区別し、図上では標高を小数 い山が、これで相当できるぞと もうおおかた登ってしまっていた だものである。なぜかというと、 かろうかと、心ひそかによろこん 立標高点が点検されたうえで、 調子でいけば、いずれは全国の独 それとともに「点検ずみの標高点」 七二〇mで、私ははじめて四等三 そうでないものが後者ということ 点以下まで示してあるのが前者、 (△七六五m)という山に登ろう 、 五万分ノ一敦賀 図幅の 岩篭 じつをいうと一九六六年の六月 なっているが、この改正ではじ のあるもの」と「標石のないも 五万分ノ一敦賀図幅の岩 表現を改めて、 四等三角点の標石にほか 四等三角点の設置は、この 標高点を「標 私 な な (

えただけでも三十以上もあるのだ がたくさんあって、ちょっと数 たしかに私が四等三角点を発見 「点検ずみの標高点」という 昭和四十年版の敦賀図幅に

から、 もしれない。 たのだから、当然のことであるか 従来の右書きから左書きにかわっ ご承知のとおり、地図そのものも ちがらのである。これはしかし、 ているところが、従来の三角点と ある四等という字の左書きになっ してあるけれども、ただその上に としても、それはかならずしも根 いう字はいままでどおり縦書きに 小じんまりした標石で、三角点と 拠のないことではなかった。 みに四等三角点というのは、 二角点よりもひとまわりちいさい 私がそういう予想をもった 三等 ちな

ある程度まで事情がはっきりする の偏在が、十分には納得できな これだけではまだこの四等三角点 分であることがわかった。しかし 刷りの昭和初期のままの二万五千 ら、このへんだけがいまだに一色 係がないかと思ってしらべてみた こで二万五千分ノ一図となにか関 域がかぎられているのである。そ のである。すなわち、たいへん地 そのとなりの西津図幅ぐらいなも 京都近傍でもやはり敦賀図幅とか たくさんのっているというのは、 は標高点で「標石のあるもの」が が、「点検ずみの標高点」あるい 万分ノ一図を見なおしてみたのだ であろうか。そういうつもりで五 さて、私の予想はあたっていた 国土地理院に聞いてみたら、 などと称して、いつまでもこれを どういうわけか「標石のあもの」

だろうが、それにしてもこういう

独立標高点扱いにしているけれど

その標石にはちゃんと四等三

ことであると、全国の独立標高点

うのを、標石のあるものとないも しれない。点検ずみと未点検とい うのは、私の思いすぎだったかも えでの変更であったかもしれな 点検ずみになっても標石をおかな のに改めたというのも、あるいは をみな四等三角点に昇格さすとい い標高点があることを、考慮のう

がないばかりに、つい登りのこし る。あるいはそうかもしれない。 がしてみると、五万分ノ一図のな というのだったら、私としてその ない。ところでもし、その独標が ていたという山が、あるにちがい る。私にはいままで独標で三角点 なんのかかわりもない存在であ 市街地の周辺に多いという説もあ えば二本木図幅の矢頭山 山を見つけることができた。たと 上に四等三角点の「標石のある」 かに、たった一つではあるが、頂 であろう。そう思ってもう一度さ 山に登らないことには、相すまぬ 昇格して四等三角点になっている なくて一等であろうとも、私には しかし、そんな低いところにある 造成などによる改変のはげしい、 三角点なら、かりにそれが四等で いっぽうで四等三角点は、土地 がそれである。国土地理院は や、篠山図幅の高山(六六〇 (七三一

> ことにしている。 われわれは標石にしたがい、こう 角点と明記されているのだから、 て、便宜上四等三角点の山という した標石を頂上にもった山をさし

ちがっていることであろう。 格とは、おのずから昇格の理由が敦賀図幅にみられるような大量昇 昇格というのは、おなじ四等三角 なかで、他にも独標の山があるに も顕著な、りっぱな山であったが 格とは、おのずから昇格の理由 周辺にみられるものや、あるいは 点ではあっても、おそらく都市 もかかわらず、たった一つだけの った。このように五万分ノ一図の 二つともありがたく登らせてもら ことを確かめえたので、さっそく おかれた、結構な山になっている いまではその頂上に四等三角点の 矢頭山も高山も、どこから見て

等という字がきざまれていた。し なかから掘りだした標石には、二 ためだというので、櫓の下の雪の であるため登りのこしていた山で る山でありながら、この山も独標 いたのだろうか。とにかく証拠が の間にか、四等三角点に昇格して ないか。はてな、この独標もいつ についたら、櫓が組んであるでは しくもうつくしかった。さて頂上 は樹氷が夕日にかがやいて、神々 ぐらいあり、頂上に近づくころに あった。年末に降った雪が三十四 新幹線からしよっちゅう眺めてい 里木から越前岳へ登りにいった。 今年の正月早々に、私どもは十

> つて経験したことがない。 間にか二等に昇格していたのであ ころか、三等をとばして、いつの かも左書きで。この独標は四等ど も、こんなめでたさは、いまだか 山にも数多く登ったけれど

九七四年七月十三日に、それを越 う二等三角点が亡失したので**、**一 ただしたところ、 後日譚になるが、国土地理院に 「印野村」とい

## 第十三回《この一本展》 4

#### で飾ったアンデルセン作 足立源一郎さんが扉を切紙 「絵のない絵本」

七一年第二五刷) 原書名・Billedbog uden 大畑末吉訳・岩波文庫(一九 計

辺 主

ました。これは、月が地球の上の 浪記」をおみせになりました。 おもちのカルコの「巴里芸術家放 今の世では存在できませんね」と とやパリ時代の思い出などを伺っ 方々の国で見た話を月を眺めてい ンの「絵のない絵本」に話が移り お話になり「貧乏画かきや詩人は て楽しみました。モンパルナスの んも鎌倉からみえていて、 そのたびにお会いするほど足立さ は私もたびたび出席しましたが、 貧乏画かきの話からアンデルセ 山岳会ルームでの「土曜会」に 画のこ

うも鋏がうまく切れなかった。フ

たっても、ちゃんと切れました ランスで使った鋏なんかは何十年

差しあげた文庫本の扉を

夜景の切紙の画で飾って逆に頂 北欧でしょうか、月のでた静かな

九六八mのことであるだろう。 うのは、たぶん富士裾野にある△ れはよいとして、このつぎ改版さ れる御殿場図幅には、越前岳の頂 った。二等三角点 前岳へ移した、という返事をもら 「印野村」とい そ

しておく。 忘れないよう国土地理院にお願 上に△という記号をつけることを

Swan)もご覧に入れました。そ デルセン伝記」(書名 The Wild Monica Stirling の書いた「アン この本をおもちでなかったので差 画が付いています。足立さんは、 収まっているのです。そして、こ 切紙を愉しんでいたという話から お会いした時に、アンデルセンが れから間もなく 一月二十二日 ていた鋏の写真なども入っている ったいろいろの切紙の挿画や使っ しあげ、アンデルセンが自分で作 す、切紙で作った奇麗なカット挿 の岩波文庫本には各夜の話を表わ 三夜の話が美しい散文詩となって を、この若い画かきが物語る三十 る一人の貧乏画かきに聞かせたの (一九七二年) 土曜日にルームで 「私も切紙を作ったのですが、ど

います。購入するにあたっては

ので、関係者が主張したことが通

著をつくらせたのでもありましょ

国立国会図書館に受入れられま 今度その蔵書のうち洋書だけが で話題となっておりましたが、 ト、中央アジアの学究の徒の間 ったのだろうかとヒマラヤニス

当であるかと思われるのは私だ 書館が所蔵したということは妥 究所の書庫に入れて訪問してく ろうか……あの薄暗い大学や研 けではありますまい。 したので、その意味では国会図 きたくない」と述べておられま れる人もいない孤独な立場に置 の将来についてどうなるのであ 深田さんは生前に「この蔵書

この蔵書は東京日本橋の丸善

野

上 成

勇

るのは昭和五十三年になる予定 終えてすべての書物が公開でき 物は全部国会図書館にあります にわたって丸善に払うことで正 ておりません。国会図書館も例 はまだ丸善に三分の一しか払っ が、お金を全部払って、整理も 式契約したわけです。すでに書 にもれず金なしですので三カ年 より購入したものですが、代金 ですので、閲覧者はご承知ねが

担当すべき選書員ではないので、 るべきであるというのです。私は 予算が逼迫しているのでみあわせ 中央アジア関係の資料と本館にあ 書館の支部である「東洋文庫」の る人がありました。つまり国会図 で購入について館員の中に反対す 重複しておる部分もありましたの 国会図書館が現在所蔵する書物と る旧満鉄調査部の資料です。購入

#### 九 Щ Щ 房

国立国会図書館 (深田久弥文庫)

にて購入

非公式に聞かれることだけ意見を 欠本を補充することはないという ては今後当館が中央アジア関係の もほとんどなく、この機会を失っ 央アジア探険関係のものは、もれ ろによると、深田さんの資料は中 入れがきまった様子は、聞くとこ たのか知りませんでした。 いっただけで、その後はどうなっ 後日受

たわけです。

べきでしようが、予算上、洋書 にして切りはなさないで購入す はずすということで 妥協しま が多々ありますので、和書は、 古書界にてでまわっている資料 した。和書、洋書ともいっしょ な資料もありましたが、現在、 方 和書は、部分的に貴重

だけで精一杯でした。

りますので、利用者が不便をす 入れた冊子目録を作る予定があ で、書庫でも、まとまってお目 関係の資料に 混入 されますの ることはないと思います。 かし旧蔵深田文庫は請求番号を 見えすることはありません。し た文庫とはならず、他のアジア ます。そしてこの書物は独立し じめていますので、今年の内に 部に流れて図書カードを取りは を払った三分の一の資料は整理 部の書物は閲覧できると思い 書物の現況については、代金

逐次お知らせします。 ては『山』で会員のみなさまに の後の状況や資料の内容につい ついてお知らせしましたが、そ たことと閲覧のできる時期に 以上国会図書館にて購入にな

> 足立さんを偲んで、この小さな本 したのでした。そのお礼とともに

# 北アルプスの『山々谷々』

野

の文筆中の松方さんは「神河内」、 の日本山岳会員でありました。こ

郷を見出すだろう。」 来った人々はここに昔ながらの故 そのただずまいを変えない。帰り 中にある。しかし山々は厳として 起り、世はたとえがたい混乱の渦 一今やわが国には未曽有の変革が

のものであります。 内容はすべて北アルプスについて といったものとも申せましょう。 氷河』のような文集のコンサイス たものの一部であります。この本 として編者の松本昇さんが記され れた『山々谷々』という本の序文 は英国山岳会の『峰、峠、そして この文は昭和二十三年に発行さ

原も一篇)であります。国やぶれ ラウンドとしたものばかり(美ヶ りますが、北アルプスをプレイグ 戦前の著書からとられたものであ 山岳会員でありました。 編者は松本の洋画家、当時は日本 して松本昇の皆さんであります。 て山河あり、の編者の思いが、わ 文集の内容の大半は、それぞれ 筆者は順に尾崎喜八、板倉 茨木猪之吉、 百瀬慎太郎、 田部重治、松方三郎、村井米 若山牧水、槙有恒、塚本閤 そ 勝

を出品いたします。 牧水の三人、ほかの方は全部現役 三年頃で故人の方は板倉、茨木、

この筆者の方々のうち昭和二十

これは『アルプス記』からのもの ありましょう。 は『山行』の「板倉勝宣君の死 であり、槙さんの「雪を踏む音」 の一部に題を変えてとられたので

くなくなった本かと存じます。 ともに今では目にふれることのす この同年月日には槙さんの『山 発行所は東京の白鳥書房、そして 装幀とカットも編者の松本さん、 行』の梓版がだされております。 発行は昭和二三年七月二〇日で、 この本は四六判、一二一ページ

## 雪岳山、 その名の名著『雪岳山』

田

真

がふる里の山よ、と、こうした編 ざまの岩峰が屹立し、天空に思い えは、海外のこの山にもこころよ 思いの怪奇なシルエットを描きだ 山すそを埋めつくす森林地帯のス 画をまのあたりにするが思い…。 くあてはまる。 は物足りぬ山であるかも知れ 高山趣味オンリーのクライマーに mである。標高だけからみれば、 ロープ。森林地帯からは大小さま 大韓民国の雪岳山。 岩壁にへばりついた木々が緑 が、山高き故に尊からずの それは著名な山水 一、七〇八

3) (

であり、一大感動である。 処女峰のイメージ。一大パノラマ は未だクライマーの足跡を許さぬ なる山、聖なる山への変貌。それ いベールの向うに遠ざかる。遥か スがはいあがり、連峰はやがて白 孤塁を思わせる。 谷間からはガ

書ということになる。 である。ちなみに非売品である。 表は李文載氏。一九六七年の発行 発行は大韓民国文教部で、編集代 めあげたものが『雪岳山』である。 いうなれば入手困難な異国の専門 し、解明し、これを一本にまと 名峰を地質学などの立場から調

りに書物の紙魚であることが第一あえて入手できたのも私が私な であった。 名が私の目に飛び込んできたもの 店の窓ごし。 来を歩きながら、ふと目にした書 ウルへと向ったものであった。往 雪岳山に登頂したが、帰路にはソ も思えるように『雪岳山』なる書 とも力あった。私は一九六八年に 加えてチャンスに恵まれたこ つぎの瞬間、 偶然と

が今なお散乱する天上の戦跡でも 体を鞭うっての登高であった。死 には限りない安息の地であり、 ぬ思いでたどりついた山頂は、 こわしては連日の腹痛。衰弱した 思えば緊張の続く南北国境のま の場であった。無名兵士の白骨 か。検問所での武装兵による検 水と食料になじめず、胃腸を 『雪岳山』の一本は、 私 私 解

えらせるいわば覚醒剤でも興奮剤にはそうした著しい体験をよみが でもある。

## 献呈本 『山行』辻村伊助氏宛署名入

正

速代金を支払い家へもち帰りまし は驚きのあまりわが目を疑い、早 名入献呈本ではありませんか。私 拶状(ともに辻村伊助氏宛)であっ てみてびっくりしたのです。なん 挟まっているのに気付き手に取っ りませんでしたが、なにか紙片が 取りだしてみました。初版ではあ り、もしや初版ではないかと思い きのことです。店先で本棚をのぞ は槙有恒氏から辻村伊助氏への署 たのです。そして、その『山行』 の案内状と、松尾峠での遭難の挨 ー東尾根を初登攀した時の報告会 いているとこの『山行』が目に入 とその紙片は、槙有恒氏がアイガ 古本あさりに神田へでかけたと

ます。この本が出版されたのが大 重な一本となったのです。 ですが、どうして無事であったの 正十二年七月八日、災難に遇われ 土の下に埋っていたと聞いており 土砂の下敷となり、何カ月もの間 してこの『山行』は私にとって貴 か不思議に思っております。かく の本は幸いにして難を逃れたわけ たのがその年の九月一日です。こ 湯本の辻村氏の居宅を埋め、氏も 大正十二年の関東大震災は箱根

とがきで書いているので、ことに

山行数通算一、〇〇〇回と自らあ 紀行が二篇入っている。水野君は の書簡、署名本のことなどが主で

「京丸より京丸山」「岩岳山」の



## 等三角点

く述べている。なかでも黒法師岳 方の一等三角点の本点七六、補点 青春の思い出、JACの会員から 荘の記録とか戦争にかり出された 前に発表された六華倶楽部緑樹山 あろう(写真も挿入)。その他は によって初めて指摘されたもので の変種一等三角点標石は、水野君 十数ページを占め、関東甲信越地 書名ともなった「一等三角点」と 五八ページの本を自費出版した。 一五九、計二三五について興味深 『一等三角点』と題する四六判 「静岡県内の一等三角点」とで三 もみじ会でお馴染みの水野君が

> 非売品だがJACルームで一、 昭和十九年十月二十日発行、 六〇〇円でわけている。

DE LA ZONA DEL HI CTOS GLACIOLOGICOS Mario Bertone : ASPE CONTINENTAL

⑥ビーチホルン山群か

④地図、高度、略語、 ⑤ゲミからペータース

(パタゴニア氷陸地帯の

が一四〇も入って解説されてい 思われる。ただし、本文はスペイ る方には多少の参考になるものと る。パタゴニア地方へでかけられ 氷河起源の湖等について写真、図 パタゴニア氷陸、氷河地域の分類、 tone 技師が書いており、内容 版されたもので、研究所の ア氷陸研究所より一九七二年に出 語で書かれている。

スの岩場 スイス・ベルナーアルプ

もよい手引きとなっている。

赤沼八隅共訳 ベルン支部編 スイス山岳会

ら一般的ルートとクラシック・ル ・ブックである。 めるベルナー・アルプスのガイド ートをスイス山岳会員モーザー氏 に抽出してもらって訳出されたも スイス・アルプスの中心部を占 全五巻のなかか

る。友人山口亮君のスケッチはな て貰いたかったと、私は思ってい ある。そういうことをもっと書い 珍らしい山へも行っているはずで 静岡県およびその隣接県では随分

> 望月達夫 のようになっている。①はじめに ガイド・ブックで主な内容はつぎ スイスではもっとも歴史の古い

アルゼンチン共和国立パタゴニ PATAGONICO Ber-は ブヒュッテン、山案内料金規定よ ミュンステルまで。 らアレッチホルン山群まで ⑦ペ のガイド 録ときわめてていねいに書かれて スイス・アルプス救護所、文献目 りの抜粋、アルプスの遭難信号、 ルヨッホまで 山稜まで グレード ②日本からのガイド ③スイス内 からマイリンゲン、グリムゼル、 ヨッホ、ウンテレス・シトウデ ・タース山稜からフィンスルアー そのほか宿泊地と出発点、

⑧グリンデルワル

(高遠宏) いる。 られており、はじめてスイスの山 渡航手続きについてくわしく述べ にでかけようという読者にとって 日本からのガイドの項では海外

の広がりを示すものといえよう。 軽く日本語で読めるようになった 訳者はともに本会々員である。 というのも、最近の日本の登山界 ッチをそえてくわしく記されてお それぞれの山へのルートはスケ この種のガイドブックが、手

昭和四十九年十月、 定価一、八〇〇円(山崎安治) 発行、B6判、二四八ページ、 穂高書店 論文集を作った上で、

取りあげ、

徐々に論文やアンケー

出版はいずれなすべきであろうと

はあっても、山岳会による独自の も未知数であった。多少のリスク

浅見にまかせられることになっ 検討すべきだが、当面は原、池田、

た。金坂氏からも、いまは内容の

しっかりした、

充分準備されたも

いう考えもあって一応理事会

○部の本がさばききれるかどうか

編集者である為国、池田の両氏

#### 高 所 登 Ш 研 究 0 出 版

#### 最 近 0 E 7 ラ ヤ 事 情 0 検

討

#### <第八回九回 高 所 登山委員会〉

▽七四年十月五日、日本山岳会会 ▽議題『高所登山研究』 の出 版に

第八回高所登山委員

寛 ▽出席者 池田常道、 和田豊司、 広島三朗、 郎 原真、 鹿野勝 神崎忠 中島

検討はされたのであったが、すみ 作成した目次案も提出され一応の であった。その場には原と中島が が、上高地山岳研究所で同研究所 のが、研究をまとめた書物の出版 番大切な議案として問題になった の使いぞめとして開かれた時、一 二年前、最初の高所登山委員会

ずれは本ができるのが望ましいと ったテーマについて一冊のコンパ がなんであるかの瀬踏みをくり返 をつっ込み、いわばやるべきこと ではなく、いろいろなテーマに首 員会の歩みは必ずしも明晰なもの の熱意があったわけではなく、い やかに一書を作成するというほど クトな本を作ることには意外な困 いう段階に止った。その後、同委 があることも解ってきた。 そのうち高所登山とい はわれわれと同じ問題をじっくり

のだ。 えって近道のような気もしてきた 人を探すためにも、論文集を最初 ではないかと考えられるようにな にだすという過程を通った方がか った。ちゃんとした論文を書ける を作った方が結局よい物になるの つぎにそれを踏み台として圧縮版

まってきた。 が適当であろうという意見がまと そして論文集は、つぎの三部作 『高所登山研究』『エキスペデ

なったのである。 の方がスッキリするということに たものが、構想をねる間に三部作 最初は一冊にまとめるつもりだっ ィション研究』『氷雪技術研究』

ポケット版、それも "Hints to 登山ハンドブック』とでもいった の小冊子にまとめて、『ヒマラヤ すしで、最初の一年間には一冊の きれば文句はないというところま 本もできなかったのである。 で構想はきた。しかし、いうはや した真に実用に役立つ小型本がで Travellers"にでも匹敵する充実 最後に、三部作の論文集を一冊 しかし、その間に、 「岩と雪」

には冒険がなかったとはいえない け早目に各方面からの批判を吸収 その他の検討事項は、すべて第一 れ、われわれの側で作った論文や だろう。また池田氏はまことに意 にそのような方針を打ちだすこと 誌の評価を高めたと思うが、事前 ださった。結果として、それは雑 できるような協力体制を作ってく 試案として雑誌発表し、できるだ わくを越えた 寛大な 理解を示さ にもなった。為国氏は商業雑誌の 同で検討する機会に恵まれること しい意向をもたれ、その企画を協 面の人物としてはまことにめずら

とにもなった。 逆にいろいろな面で啓発されるこ 欲的な研究家で、われわれの方が

岳会にかなりの収入をもたらすと からであった。ひとつの正攻法的 討されはじめたのは七四年六月頃 に山岳会の力で一〇〇〇~二〇〇 用三〇〇万円を必要とした。それ いう案であったが、事前に印刷費 た。これはもし実行されれば、 費出版が第一案として検討さ な案として、日本山岳会による自 所登山研究」の出版が具体的に検 山れ

集を作ってゆくという、この方 下。 月十一 編集の名前を使うことはかまわな ということであった。日本山岳会 四年十一月号) いということであった。 日 理事会の見解は、 に試案を提出した 時期尚早 (山、七 (宮

件を明示してくれた。 本位の良心的出版をするという条 また採算をあまり考えない、内容 版を引き受けたい旨伝えてきた。 型圧縮版を含めて全部の系統的出 みることになった。その結果、山 いて、二、三の出版社にあたって 挫をきたした。そこで次善の策と と渓谷社がもっとも強い意向を示 して考えられていた商業出版につ し、論文集の三部作とそれらの小 ここで単行本の出版問題は一 頓

ところで、第一冊目の論文集 論文の試案が一定量にたまった あらましである。 以上が出版に関する準備経過の

上記の問題について、

る必要があり、その辺をもう少し 期に責任をもつ人物数人を用意す う意見もでた。そのためには、長 であろうという 意見に 落ち着い 渓側の申し込みを受けるのが適当 にあるかどうかが問題であるとい 原稿を最後まで作る自信がこちら た。むしろ予定どおり全出版物の 間で議論がなされた。 まず出版社の件については、 Ш

た。 ものを収録する方針も了承され する代表的顧問を引き受けてもら の編集委員会を作ることが確認さ 表された論文から名著といわれる うという案もでた。また以前に発 れた。なお金坂氏には全出版に関 った。近い将来、長期計画のため をだす時だろうという助言もあ

池田、浅見と決めた。 山研究』とし、編集者は金坂、原、 最初の出版物の題名は 『高所登

#### 目次案

出席者の 神病理学(リン、加藤和美、浅見 更があり得る。 録。以上についてはなお多少の変 ンケートによる 高 所 登 山文献目 家の体験集(アンケート集)、 山将男、浅見正夫)、世界の登山 田豊司)、高所における燃料(越 正夫訳)、 中島道朗訳)、 登山家における 精 応と高山病(ブレンデル、加納厳、 ティックス(髙橋善数)、 難例(村井葵)、高所登山論(原 八〇〇〇m峰のタクティックス 真)、 八〇〇〇m峰の 新しいタク (松田雄一)、高所障害による遭 エベレストと酸素(深田久弥)、 酸素補給と酸素器具(和 高所順 ア

それらはいずれ出版するであろう でにできあがった論文もあるが、 これは後日開かれた原、 他の論集に収めることになった。 氷雪技術論、ドーピング論などす 他にもシェルパ論、ナダレ論、 田、浅

を期待している。 年度委員にはこの方面に意欲のあ 主要な仕事になると考えられ、次 これらの出版計画は、同委員会の 見による編集会議で決められた。 る、経験豊かな会員の積極的参加

三十一日に出版されることになっ 屋で原、池田、浅見が最終的打ち 合せを行ない、本書は七五年五月 十二月三十一日、一月一日名古 (原真)

# 第九回高所登山委員会

▽一九七四年十一月十七日、名古 「最近のヒマラヤ事情を検討する

祝之、池田常道、田中栄蔵、原真、 伊藤行人、鹿野勝彦、広島三朗、 見正夫、上田豊、 ▽出席者 屋、原病院会議室 樋口敬二、池沼慧、 岩坪五郎、柏瀬 浅 「ダウラギリI峰南壁」

恵生、神崎忠男 橋隆二、国島陽三、原田豊、小川 田明信、和田豊司、奈須文枝、市 上宏一、宮下秀樹、野村哲也、 信之、金坂一郎、三村和男、 謙次郎、鈴木常夫、湯浅道男、 雨宮節、 加藤英生、 木村博、藤岡 石本 横 池

間で情報を交換し、今後の遠征計 と最近ヒマラヤから帰った者との 現在海外遠征計画をもっている者 化しつつあり、的確な判断がしに くい状態である。この会の目的は 最近のヒマラヤ事情は急速に変 への一助にしようということで

る出席者数で会場は開始時から満 員であった。 主催者の予想をはるかに上まわ

った。 集めたテーマで、この方面の見聞 が広い岩坪氏、広島氏に質問が集 パキスタン情勢はとくに注目を

#### ▽議事

「ヒマラヤの氷河と気候」

比較登山論序論 (樋口敬二)

最近の外国隊の動向」 田中栄蔵

(池田常道)

ヒマラヤ情勢の変化」 (広島三朗)

#### К 12 登山報告

(岩坪五郎・京都大学)

「ジャヌー北壁」 岳同志会 ·東京都岳連 (小川信之・山

「ナンダ・デヴィ縦走」 彦・日本山岳会) (鹿野勝

「エベレスト」(奈須文枝・女子 ·RCCII中部支部 ムスタグ・タワー」 (市橋隆二

「ダウラギリI峰」 本イラン合同隊 (木村博・日

登攀クラブ)

「カラコルム登山隊」 郎・碧稜山岳会 (藤岡謙次

技術論 ・ヒマラヤ事情・組織論・資金・ 伊藤行人

#### 不 遇 な 山 Þ

 $(\stackrel{:}{\pm})$ 

# 石

### ÷ 尾高山(二二十二m)

アルプスの雄峰が、東から南 岳、上河内岳、光岳へとつづく南 岳から赤石岳、大沢岳、兎岳、 上の東南面に木立が切られ、荒川 は、全山樅栂の深林におおわれて いるが、三等三角点の置かれた頂 たりとした山容をもたげる尾高山 御池山と奥茶臼山の中間にゆっ へず 聖

川からとりつくにしてもアプロー 行くのも、この山にふさわしい歩 た山村を訪ずれ、昔から伝わる伝 チは長いが、旧秋葉街道のひなび き方であろう。 承を探りながら奥深く分け入って

(雨宮節

間二十分)=上町―(二時間)―第一日 飯田線平岡=(バス一時 (地図) 赤石岳、大河原、 飯田、時又、満島

第二日 尾高山往復(登り三時間、 降り二時間) たは幕営 程野― (三時間) ―営林小屋泊ま

第三日 帰宅 川の下流に道ができるまで、飯田 バスを上町で降りる。ここは遠山 飯田線平岡から和田のりかえの から小川路峠を越えて、 毎日

> 間 信 夫

二十頭の駄馬が荷を搬んだという

らっと押し並んでいる。 遠山川から入るにしても、小渋 るが、この道は大きく山腹を迂回 渡へ通ずる広い林道が開かれてい と御池山の最低鞍部を越えて大沢 野の部落へ着く。ここから尾高山 ばかり歩くと、尾高山の登り口程 火祭の竈をみたりしながら二時間 びた宿が、二、三軒残っている。 もずっと近い。 って行った方が、情緒もあり距離 しているので、地図の点線をひろ 宿駅で、いまだに天井の低いひな 遠山郷の霜月祭として知られる

幕営することになろう。池は長径 日は無人になっていることが多い 四〇m位の小さなものだが、大き から、不在の時はすぐ下の池畔に 小屋は、二階建三棟、平家五棟と いう大きなものだが、土、日、祝 標高一七〇〇mに位置する営林

では滅多にみられない見事なもの 樹下には萠黄、緑、濃緑の苔がビ と、樅栂の森は次第に幽邃になり、 ッシリ生えている。ここの苔は他 いて大きな岳樺の純林を過ぎる である。 た幽邃な環境である。 営林小屋から雑木尾根へとりつ

深い森の中を右へからんで南鞍 へでると、伐採跡の枯木越しに

> 黒木の登り二、三十分で頂上へで 南アルプスの雄峰が眼前に迫り、

蔵峠まで下り四時間) 引返した方が無難であろう。 がちであるから、往路をそのまま にない隆起が多く、踏跡もとだえ 蔵峠へ下ったが、この尾根は地図 私たちは帰路を西北へとって地 (地

# 三、二児山(二二四三m

四二七mで伊那山脈に接続してい 鹿塩川の間を北走し、分杭峠の一 連らねて、三峰川と小渋川の支流 ○○mぐらいのゆるやかな起伏を 黒河山など、二四○○mから二二 へ分れる大尾根は、小黒山、樺山、 三伏峠北よりの本谷山から西北

な白樺林の中に真青な水をたたえ ある。 でもすぐそれとわかる特異な姿で 関心をもって眺めれば、どこから 小さいのであまり目立たないが、 る二児山は、稜線からの高度差が クダのコブのような双頭をもたげ この長大な山稜の北よりに、ラ

まれ、東に間の岳以南の南アルプ なっている。 の右遠く北アルプスが雲表に連ら 峰の頂上は背の低い樅や栂につつ 過ぎないが、ここよりやや低い西 岳や農島岳、塩見岳を垣間みるに 木立のうすれた東南面から、間 ッシリと黒木をまとい、わずかに ス、西に中央アルプスと御岳、そ 二等三角点の置かれた東峰はビ

満喫することができる。 けに南ア前衛の秘峰らしい感じを 悟しなければならないが、それだ なく、かなりひどいボサ漕ぎを覚 いず れから取付くにしても径は 高遠、市野瀬、

第一日 時間三十分)=浦部落民宿または 飯田線伊那駅=(バス三 大河原

下り五時間) 第二日 一児山 往復(登り七時間

第三日

帰宅

して時間をつぶすのもよいであろ 趾を訪れたり、素朴な山村を散歩 で、その待時間を利用して高遠城 途中二回ばかり乗り替えがあるの 伊那駅から浦部落へのバスは、 ってくる。

が素晴らしい。 さな双頭をもたげる二児山の眺 て大きく眉を圧する仙丈岳と、小 する素朴な山村で、三峰川を隔て 一○○mのゆるやかな山腹に点在 バスの終点浦の部落は、 標高

難い環境である。 て南アルプスの雄峰に対峙する得 荘は、古い農家の内部に手を加え た落着いた建物で、いながらにし バス停に近い会員交野さんの

眺めのよいキャンプサイトもある し先の山腹には、水も薪も豊富な この部落には民宿もあるし、 泊るにはことかかないであ 少

第二日はなるべく早く出発しな

き登って菰立沢へでると、道は大 らむ広い林道を、 ければならない。 林道の上部へでる。 きく左へ迂回しているので、 な踏跡を辿って折り返えしてきた 二時間ばかりま 左岸の山腹をか 幽か

この辺りは高原状にひらけた広

くばかり南に近づき、背後に大き たりまでみえてくる。 い笹原で、目指す二児山は手も届 てて白峰三山がグワット眼前に迫 て急な崖が薙ぎ落ち、三峰川を隔 稜をしばらく行くと、東側に面し く仙丈岳、その左に遠く入笠山あ へとりつき、大きな椹の茂った山 林道終点の伐採跡から左の尾根

くの悪戦苦闘であった。 に難渋するから、軽装で浦部落か 倒木、茨、残雪の急坂で、 ら往復するのが無難であろう。 塩へでたが早朝から日暮れにおよ て東峰を往復し、西峰を越えて鹿 で、これから先は針葉樹の若木、 ぶ十四時間のアルバイトだった。 私たちは双峰の鞍部に荷を置い どうやら歩けるのはこれ 大きなキスリングではボサコギ まった まで

# ウエストン祭のお知らせ

の通り五月三十一日(土)六月一日 諸氏の多数参加を期待します。 祭は一日午前十時からです。 (日)両日上高地で行います。碑前 第二十九回ウエストン祭は例年 会員 ずいぶんひどい案内人であり、

では孫四郎はいたのか、 元にとっても名誉な話ではない。

昔とはい

父が孫四郎であって、

乱のさい

る。この落居した与一郎忠昌の て秩父の栃本に落居するのであ 幼少の与一郎忠昌が雁坂峠をこえ

ている」(昭和四十二年版)とある。

#### 奥 秩 父 0 孫 四 郎 峠

峠 名 0 由 来 を た ず ね て

柿 原

謙

近年はまったく使用されないが、 通っていた。 大戦前の登山者はほとんどここを 道は先年の台風と倒木で荒れて、 で四十分ほどかかる。しかしこの ある。この峠から雁坂峠まで登り 栃本―雁坂峠の間に孫四郎峠が

か。 私も昭和十年八月現地を確認して り栃本に降りるときこの峠のこと がなかった。木暮さんや田部さん あとで生れた地名なのであろう いる。木暮・田部ご両所の登行の の登山地図には明示されており、 にふれていない。しかし昭和初期 の初期の紀行をみても、雁坂峠よ この峠にはあまり峠らしい風情

内してはここを雁坂峠だとウソを 栃本の孫四郎という男が旅人を案 パインガイド「奥秩父」にも、「昔 から峠の名前が生じたと伝えられ ついて帰ってしまった。このこと ものであろう。山と渓谷社編アル に口伝がある。その民話によった しかしこの峠名については地元

る以上やむをえない。それにして ていないようだ。しかし口伝があ で、私はどうも合点がつかなかっ ムードとは妙にかみ あわない話 もこの民話は、あの純朴な栃本の つ頃なのか。それは地元でも判 ところが孫四郎は実在したので

の乱という。この戦で首班大村伊 北条方に通じ、徳川方に返忠した をめぐり、北条と徳川の争奪戦が 村家落居の史実を論じている。 氏」(新井佐次郎稿)がのり、 賀守は討死し、その子と目される た。これを秩父の乱または雁坂口 穴山梅雪の兵によって 殱滅され 街道ぞいに本領をもつ大村一族は 展開されたさい、雁坂峠甲州側の 長の死によって空国となった甲斐 第四号に、「再び秩父の乱と大村 大村家の先祖にさかのぼる。 「埼玉史談」の近刊第二十一巻 信 大

泊られた頃の大村家の当主与一氏言すれば、木暮・田部のお二人が 峠は案内人孫四郎の伝説とは関係 討死していると書かれていた。 こで私の推理がうごいた。孫四郎 は、与一郎忠昌の子孫である。 さて孫四郎なる人物はいた。こ

ことを公言するのも惮りがある。 かるにやがて関東は徳川の本領と がない。 ゆく。この推理にひろくご教示や 名として納得され、すべて合点が 栃本組の里正(名主)なのである。 ない。同家は江戸時代の古大滝村 峠名として地元に許容するわけが 行った不名誉を大村家の人たちが がその昔実在したとしても、その すにすぎまい。よし案内人孫四郎 孫四郎伝説はこの思いの外皮をな の呼称を生むのであって、 この悲情を宿す心情こそ孫四郎峠 慕の念が凝集するはずである。し は討死した叔父孫四郎の面影と追 から甲斐の空を眺める一族の険に 峠が奥秩父の歴史にふさわしい地 こう考えることによって、孫四郎 なり、徳川政権下で孫四郎叔父の 以上は私の推理である。 落人となって本領を去り、 案内人 しかし

孫四郎とはまったくかかわりのな

ある。しかしその孫四郎は民話の

い戦国の武士であり、

話は栃本の

(昭和五十年二月)

ご批判を仰ぎたい。

X

X

X

×

#### 山 名考

E

山 名 0 由 来

単に奥山とか、奥の山とかいって 今日でも山奥の人達は背後の山を 納得いく名前、つまり名前のつけ である。それ故に、多くの人達が が一般化し、固有名詞化したもの 初めは少数の人間が使っていたの 八ッ岳、天城山、箱根山というよ 総称的な山名であった。白峰山、 つい最近まで個々の山名はなく、 いる。これで充分意志は通ずる。 方の正当性が要求される。従って 元来、土地なり山なりの名前 か。どうしてできたのであろうか。 [の名前とは一体何で あろう 0

って命名される場合が多い。 双子山 など、 この形状に由 その形によ ら個々の山頂に名前が付けられて

かになるにしたがい、

山の総称か

をすれば、山と人間の関係が身近 してきたためである。別のいい方 かかわり合いが、それだけ複雑化 らなくなったのは、山と人間との れ一つずつ山名をいわなければな れらの総称の山の中から、それぞ でなく広い山域の総称である。

> する。 と裏側では、山名の異る場合が多 なってくる。同じ山でも、山の表 ても、その眺める位置、つまりど の地域社会と密着した性格を帯び るようになる。一般的な山名もそ は自分達の生活の中の山と認識す したがい複雑化する。 この命名の原則的な方法も、より 的な名前では一般に通用しない。 なわれた。交通や記憶の目的とし 命名方法は、洋の東西を問わず行 来するもっとも単純素朴で明快な い。一つの山でも、お互いに山麓 こから眺められた山名かが重要に てくる。山の形からの命名であっ 山と人間の関係が身近かになるに 山と誰にもすぐ判る。特殊な個人 て、目立つから大山、 住民達は自分達の山として主張 山麓の住民 丸いので丸

共通の文化・経済・行政の地域社 と別々な名前で呼ぶ山が随分とあ では国名、現在では県名が異なる っても共通の山名で通用する。 会においては二つの地域社会であ 立しうるものである。これに反し 交流が乏しいので二つの山名が成 域社会の経済的・行政的・文化的 る。別の見方をすれば、二つの地 とくに行政区分の境、つまり昔

**うに、単一の山頂を指していうの** 

可能となった。 間は自分の根拠地=地域社会を遠 展させるにしたがい、長期保存の 能な食糧を得るようになり、人 、間が食糧生産手段を発見、 狩猟・漁撈することが いままで眺めてい 発

民俗学、言語学、考古学などをた その地域社会における、地質学、 地域社会が判れば、解読の方法は りになる。難解な山名も命名した 地域社会の人達がつけたのかが、 礎になる山をみれば山名はどこの が必ずなければならない。その基 に同じような奥山のあることを知 も、その前山に登ってみるとさら きる場合が多い。 大半できたことになる。 した地域社会との歴史解明の手掛 ほぼ判明するとともに、その命名 を冠したこれらの山には基礎の山 農鳥、東岳、 な方位性をもたせて、北穂高、西 茶臼と名付ける。これと同じよう り、前山が茶臼山なら奥の山を奥 た山に隠されてみえなかった山 に全国各地に見られる。東西南北 よりに総合判断すれば大体結論で 南駒ヶ岳というよう あとは、

がある。大無間山、中岳、 さや、位置を言い表わす山名に、 けでは山名をつけた人間の地域社 山、間の岳というように。これだ 間(あいだ)を山名に冠すること 大、中、小、時には中(なか)、 命名した人間の地域社会を推定す 山との関連性を検討してはじめて 会は全然判明していない。 山の方位性に似ているが、大き 付近の 小太郎

境の因子としての地質、 の名前がつけられる場合もある。 頂付近に貝殻の化石が発見され 山の方位性でなく、山を創る環 地層から

り、

意志を通じ合うに便利であ

り命名した地域社会はすぐ判る。 特徴が見える位置が限定されてお うように。これらは山の部分的特 立つ浜石岳、明治初期測量班がラ て山名となった、駿河湾にそび この方法は案外と古くから行なわ 徴を山名に冠したもので、部分的 大崩山、青薙山、赤岳、黒岳とい て山名がつけられる場合もある。 いは山の崩れた地層、山肌によっ けられたような場合もある。 床を発見して、赤石岳の山名がつ ジオラリヤの見事な、赤褐色の河 ある

多い。これらは人間が登山をしだ 物名を冠する場合がある。小松峰、 命名である。 してからの山名で、比較的近代の 山頂付近の群生植物からの命名が いる山を意味するが、多くの場合 れぞれの植物が特徴的に群生して 偃松尾、笹山、桧山等である。 じように、その山を特徴付ける植 この地層の状況で命名すると同 そ

では、部落の中を流れる川は、 する地域社会としての村落共同体 川口というように、文字からして 名される場合が多い。沼田、山中、 =地名も山の命名と同じように命 を述べた。人間の生活する地域名 状況から命名する場合が多い理由 にすることにより、その形、位置、 すぐ判る命名である。人間が居住 山の名前の多くは、人々が目標

> ら下流にしたがって三回も名の変 同じ川でも別の名前となり上流か わる川も珍らしくない。 それ故に、部落が異なると、

能なのである。 個人的な名称をつけることは不可 別の名前、 特別な理由でもない限り、地域社 名を山にとるものである。 でなかった昔、あるいは後世、 ることがない。共同体の性格から 会の延長としての意味をもたない しての山と視るから、部落や川 みてよい。地域社会の進展の場と れる川の名が冠されるのが原則 の名前は、多くの場合、 有地、入会権地としての部落の山 山がまだ個人または領主の所 個人名、擬人名はつけ 部落を流 なにか ح

分の部落の名を冠するのが自然で 自 場合には、 越という名称が付けられる場合が の支流や枝沢のつめに山頂がある る滝沢、徳右衛門が初めて入った 時には人名などを付ける場合もあ と小さな枝沢に命名の必要に迫ら 右俣、左俣とか、東西南北をそれ みでなく、支流や枝沢を区別する ので徳右衛門沢というように。こ る。紅葉が美しい紅葉沢、 れると、その枝沢の景観、地形、 河内であったりする。さらにもっ この場合、支流の名称は、俣、沢、 落のない時、支流は多くの場合、 必要に迫られる。本流の上流に部 ぞれ冠して区別する場合が多い。 地域社会の人間がふえ、本流の 何々沢の頭、とか何々 滝のあ

の神に対する信仰は民間信仰

教系の寺坊に求めていただけであ 修業は、山臥する験者といわれた。 修練場として山谷に分け行っての 本来的に実践的な呪者 達の 言行 は律令制のゆるみとともに、その 弾圧した。そして役小角を伊豆に 衆として、律令制下の宗教統制で の仏教を旨とする指導者層は、こ 影響をおよぼした。奈良時代、役 後世とけ合って、山名の命名にも てゆくという信仰が根強く残って りのかみ)の住まっている所とし の供給源たる山を水分神(みくま 耕社会の成立とともに、潅漑用水 もっていた。日本ではとくに、農 魔の住む所であるとの原始信仰を 応じて祈祷をし、病人には呪法を 入れ、読経修法して民衆の求めに る。笈の中には仏壇、仏具一式を 行動が本義であるので、諸国を歩 立したものである。彼等は実践的 根ざしており、密教を媒介して成 元来、修験道は山岳の固有信仰に に、理論的裏付けがされていった。 遠島にした。しかし、山間の呪術 れら呪者の呪言めいた言を妖言惑 小角を開祖とする呪者達を、新来 いる。この信仰と外来の仏教とが なり岐神となり、秋になれば帰っ の神は春には山を下り、田の神と して病を安らげたりして、旅から く彼等は、根拠地なり寄寓地を密 への修業が山伏の本業である。 あがめる風習がある。この山

山道が山名や密教寺院を結ぶこと 交わるように、彼等の山間の修験 けたものであろう。文珠山、観音 活の安全、死後の安泰を願って付 域社会の民衆が、彼等を通じて生 等の命名か、彼等に影響された地 においのある山名の残るのも、彼 ろう。全国いたるところに仏教的 衆は自分達とは異質の力の持主と によって浮び上ってくることであ で気付くことは本街道に並ぶか、 意味づけさせた山名である。ここ 何等かの関係をもたせ、あるいは の中でもっとも一般的なものであ して、畏怖感を抱いて接したであ 山谷に山臥す彼等をみて、民 竜頭山、聖岳等。みな仏典に

元来、固有名詞は人間相互の意志の疎通を計る便宜的な符号である。○でも△でもよいが文化の発る。○でも△でもよいが文化の発え。山名の命名の原則であった、形や一般民衆の地域社会の延た、形や一般民衆の地域社会の延た、形や一般民衆の地域社会の延た、形や一般民衆の地域社会の延た、形や一般民衆の地域社会の延た、形や一般民衆の地域社会の延れる場合がある。ある人間をおきたたえたり記念したり、あるいは追憶の情から山名をつける場合である。

どはこの例である。時代が下ってどはこの例である。時代が下ってんでつけた、鳳凰山、御在所山なんでつけた、鳳凰山、御在所山ねんでつけた、鳳凰山、御在所山担た。この南朝に属した皇族や加担した貴族、武士たちが法皇をしのした貴族、武士たちが法皇をしている。時代が下ってどはこの例である。時代が下ってどはこの例である。時代が下って

と舌して、と音長のを持切など。 が殺された駿河の梶原山、金時が した山名もある。梶原景時等一族 戦国の武将名を記念あるいは追憶 ……

さて、人類は昔から山は神や悪

生活していた箱根の金時山など。 実在した人名あるいは事件などからの山名は、多くの場合、明治以後であり、それも登山がさかんに 後であり、それも登山がさかんになるにつれ命名されている。 今日では一応、国土地理院発行の地図に記載された地名で普遍化され、固定化されたと認められる。 一部の山岳雑誌やパンフレットに勝手に地名を命名しているのを散勝手に地名を命名しているのを散勝手に地名を命名しているのを散ある。新聞社の観光施策として『日本平』の名が生れた。元来は有渡本平』の名が生れた。元来は有渡本平』の名が生れた。元来は有渡本平』の名が生れた。元来は有渡地である。一つの行事、事件によ

(続く)

ーザにふみつけさせて、本来的な

名や地名の破壊が行なわれてい

困ったことである。

# 海外からの便り

## 私たちは三十日の夕方、 先発の エベレスト日本女子登山隊より

二名と合流し、全員(十五名)カトマンズに集まりました。 翌日よりキャラバン出発の準備 翌日よりキャラバン出発の準備 ですめておりましたが、二月八日いよいよエベレストの山ろくへ 同けて歩き始めることになりました。荷物の空輸は今日から始まりた。 た。荷物の空輸は今日から始まりた。

カトマンズの街は二月末の戴冠 
立な控えて活気にみちています。 
道路も大分整備されました。まだ 
近路も大分整備されました。まだ 
工事中のところもありますけど… 
エッレードの練習光景などみられま 
す。荷物が少ないのでゆっくりキ 
す。荷物が少ないのでゆっくり 
オートバイの 
エベレスト日本女子登山隊 
エベレスト日本女子登山隊 
な野英子

り何気なく命名された山名―地名

# ブエノス・アイレスにて

大変ご無沙汰致ました。

村井米子宛

コンカグア登山の様子をお知らせ実はお便りおくれましたのは、ア・アイレスにたどりつきました。り、アルゼンチンの主都ブエノスリ、アルゼンチンと約一万四○○㎞を走アドル、ボリビア、チリ、アルゼベネズエラ、コロンビア、エクベネズエラ

した方がよいと考えていたためですが、私たちの旅はスケジュールがびっしり、十日間という登山目がびっしり、十日間という登山日に残念でなりませんでしまいました。まこと態になってしまいました。まこと態になってしまいました。まこと態になってしまいました。まことがの登山隊が遭難し、救援隊の本人の登山隊が遭難し、救援隊の本人の登山隊が遭難し、救援隊のあり、装備の点検がかなり厳重です。

今回はドライブが主なのですから、しかたありません。人間はみら、しかたありません。人間はみらな元気なのですが、車一台エンジン不調のため、ブエノスから送り返し、後半はあとの一台で走る予定です。

(村井米子宛) 小倉董子れもよろしくお伝え下さい。

発行所 法人 日 本 山 岳 会 利根川商事㈱さくらビル 利根川商事㈱さくらビル昭和五十年五月二十日発行

(83)二二八六(代表)編集代表 山 崎 安 治 発 行 者 今 西 錦 司

中刷所 株式会社 技 報 堂東京都港区赤坂一丁目三番六号 振替口座東京四八二九番

#### 主資 単三山の木

東京都千代田区神田駿河台2の1·Tel(291)9442振替東京24723

かんあおい

〈A 5 判〉定価2,600円 山下一夫著

遙かなる未踏の尾根

マカルー1970年

日本山岳会東海支部

〈B5判430頁・カラー64頁〉定価4,800円 シプトンの自叙伝

シプトンの自叙伝 大賀二郎・ 大踏の山河 倉知 敬訳

〈A 5 判440頁〉定価1,900円

山に忘れたパイプ

藤島敏男著 〈菊判584頁〉定価2,500円 森林•草原•氷河

加藤泰安著〈A 5 判482頁〉定価1,500円

山の古典と共に

大島堅造著〈四六判280頁〉定価1,500円 雪山•藪川 川崎精雄著

〈A 5 変型判340頁〉定価1,200円

我がスキーシュプール 麻生武治著 (B 6 判388頁) 定価3,400円

昭和50年版

山日記 日本山岳会編

総索引 1,000円

<A6ポケット判>定価950円

3,000円 2,500円 2,300円 2,000円 2,000円 Ш 岳 日本山岳会編 65年 <A5判> 63年 2,200円 62年 2,000円

山で唄う歌1集・2集

戸野 昭・朝倉 宏編 〈A 6 判126頁〉| 集240円・2 集280円

屋久島・美しい豊かな自然 赤星 昌編 〈B 6 判202頁〉定価480円

日高山脈 北大山の会編 〈菊判362頁〉定価2,200円

吉沢一郎古稀記念論集

カラコラム 〈B 5 判200頁〉定価3,400円 小さな頂 一原有德著

〈A 5 判360頁〉定価2,900円

原野から見た山

坂本直行画文集

〈B 5 箱入布特製本〉定価4,200円

雪原の足あと

坂本直行著〈B 5 判206頁〉定価2,800円

日本の山旅

足立源一郎スケッチ帖

〈A変型208頁〉定価3,600円

いろりばた南会津山の会

〈B24どり判320頁〉定価1,900円

すこし昔の話

初見一雄著〈四六判400頁〉定価1,200円

ブータン感傷旅行

小方全弘著 〈菊判280頁〉定価980円 登頂ゴジュンバ・カン

高橋 進編 〈A 5 判350頁〉定価900円

#### 登山・スキー用具専門店

山の店

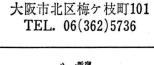
#### ●買い易い 山の店

#### ●北へ来たら 山の店

#### ●フレッシュな 山の店

#### 山とスキーの専門店

東京都文京区湯島3丁目38-9 片桐 盛之助 電話 東京(831) 1794·6680番



四 谷 店 東京都新宿区三栄町三番地 TEL (351) 7432-1912

八重洲口店 東京都中央区八重洲二の五 TEL (271) 1560-8575

新宿店 新宿ステーションビル四階

サービスショップ T E L (352) 6 5 6 4

日本信販加盟店



山友社をかはこ

きことらえてきる なにろ人間です どうこ ですか

かたる("シンテイ でんや 281~8456 中央区・八重ス401

登山とスキー具

東京都中央区日本橋通2-1 PHON; 271-7686 · 1718



### 三月理事会

屋副会長、山本。 評議員、高遠、三枝各委員。委任 中 今井監事、望月、山崎、佐藤、金坂各 神崎、松丸、大倉、丹部、田村各理事、 倉、伊倉、近藤、春田、宮下、浜野、 □出席者 今西会長、織内副会長、板 (三月十四日午後六時ルーム)

委員会で検討の上次回理事会に提案。 予算案、会費値上げ等については財務 について承認、会費値上げ案等を検討、 の紹介について 常務理事懇談会報告について(板倉) 事務局岩佐氏退任と市村洋子嬢新任 各委員会から出されていた予算原案 (板倉)

とで評議員会、常務理事会で検討。了承 四月理事会、総会日程について

役員交代の件

次回理事会に役員候補者案を出すこ

第三利根川ビル 四月二十三日午後六時…総会、場所 四月十五日午後六時…理事会

六(カメット峰遠征)(説明 結果、正式手続きを取ること等。了承 記念講演会開催の後援について交渉の ・日印合同婦人ヒマラヤ登山隊一九七 専門委員会でまとめた案について報 七十周年記念事業について(望月) 一部実施、決定したものもあるが、 須田) 10 日

同登山ということで。 ▽報告事項 日本山岳会とインド登山財団との合 了承

十五日午後二時より第三利根川ビルで 新入会員オリエンテーションを三月

Щ

が決定 UIAA出席の日本代表に近藤等氏 海外登山

## 三月臨時理事会

松丸、山本、田村、大倉各理事、今井 遠、三枝各委員。委任 板倉、原、浜 監事、望月、山崎、金坂各評議員、高 会長、伊倉、近藤、宮下、浜野、神崎、 口各理事 ○出席者 今西会長、中屋、織内各副 (三月二十五日、本会ルーム)

常会員総会にはかることにした。 承認。文部省に届出をするとともに通 ・昭和50年度事業計画案および収支予 原案について検討の後、提案どおり 算案の件 (伊倉)

とにした。了承。 事会後の評議員会にもはかり総会に提 出することにした。了承。 総会提出の候補者案について検討、理 費について補正して、総会にはかるこ ・役員、評議員候補者案の件(織内) 全役員、評議員の任期満了につき、

### ルーム日誌 (三月)

四八三三

高橋

光雄(50年3月)

14 13 日 日 11 日 6 日 5 日 **4** 日 3 日 (火) 自然保護委員会 (火)青年懇談会 (木) ナンダ・デヴィ委員会 (水) 集会委員会 (月) 常務理事懇談会 (木) ナンダ・デヴィ委員会 (月) 集会委員会 理事会

18 17 日 日 15 日 (火)婦人懇談会(ヒマラヤ研究 (月) 図書委員会 第三一九回小集会 オリエンテーション

会員異動

七六九九 斉藤 五逝去 旻 昭和四九・五

五〇二三 渡辺 利雄 秋山 英二 五逝去 昭和五〇・二 昭和五〇・二

終身会員

・定款一部改正案の件

(伊倉)

原案について検討の後、一部終身会

四四四 一七一〇 五五六五 小池 白井 久夫 新二 昭和五〇、三 昭和五〇、三 昭和五〇、 Ξ

五七二四 四九九六 二三四〇 山岳同人、凌雪会(50年3 杉本賢治(50年3月) 井本 巌 大山山岳会(50年3月) 条光男(50年2月) (50年3月)

# 第11 回秩父宮記念学術賞授賞式

大学ネパール医学調査診療隊の「ネパ

第11回秩父宮記念学術賞は、久留米

下のおことばがあった。 に賞状と賞金が授与され、 クラブで授賞式が行われた。 づき診療隊々長脇坂順一久留米大教授 東俊郎選考委員の選考委員長報告につ 茅誠司日本学術振興会々長の式辞、 秩父宮妃殿

時から東京丸の内、東京銀行協会銀行

れることになり、三月十四日の午後三 ールの医療事情に関する研究」に贈ら

19 日 (水) 常務理事懇談会、山岳史懇

26 25 20 日 日 日 (火) 理事会、評議委員会 (木) ナンダ・デヴィ委員会

28 27 日日 (金) 木 29 日 (土) 青年懇談会 (金) 明治大学山岳部OB会 ナンダ・デヴィ委員会

物故者

・二四逝去

退会者

(水) 指導委員会、第一回海外登 山研修会、婦人懇談会

| -  |   |
|--|---|
|  |   |
|  |   |
| -  |   |
| -  |   |
| -  |   |
|  |   |
| -  |   |
| -  |   |
| -  |   |
| Charles Contract of the last o |   |
| -  |   |
| -  |   |
| The Laboratory and the laboratory of the laborat |   |
| No. of Concession, Spinster, or other Persons.   |   |
| The Party of the P |   |
|  | 藤信生 堀 子 塚 西 子 ▽ な た 授 ラ と で で で で で で で で で で で で で で で で で で |
| Annual Property and Personal Property of the P | 「「「「「「「」」」   「「」「」 「」 「」 「」 「」 「」 「」 「」 「」 「」 「」 「」           |
|  |   |
| -  | 門 高 京 内吉 、喜 大 、 田 、熊 今 米 として珍 開 八 褒                           |